

し、保護干渉の政略を取るが如きは、嘗に商業者勞働者の利益を損害するのみならず、國家の富源を乾涸せしむる者」と。ピットはスミスを見る師の如く、其大宰相たる以前に於て、すでに能く、其政略の根基として、スミスの原理を習得せり。彼が治世の初十年間は、英國政治家の資格に於ける回轉期あり。英國の宰相にして、世界人類の福祉を増進せんが爲に、生産事業の勉むべきところを、自ら行ひたるもの、彼を以て初とす、彼は嘗にワルポールの如き平和の政治家たり、財政家たるに止らず。平和安全は、外國貿易の自由と擴張とにあるを見、國家經濟は、國家の負債を減すると同時に、工業の資本を増加し、國家の財政は、單に歳入を容るゝの方便たるに止らず、亦同時に政治的社會的改革の、勢力ある一大機關たることを經驗したる政治家あり。一千七百七十六年は、嘗に米國獨立の年たるのみならず、アダム、スミスの富國論の出たる、亦此年に在り。此一著實に殖産的改革、經濟上の革新の前驅にして、爾來世界の經濟は、未曾有の大變革を、おせり。

かくの如くして、諸の發明と發見とは、英國の形勢を一變して、世界の最富國たらしめ、次て世界に大影響を及ぼし、遂に政治界の局面を一變するに至りたるは以上すでに説けるが如し。進歩は社會の大勢あり。我國の殖産界將來如何に進歩すべきか、其社會的、政治的影響の如何は、未來の疑問也。吾人まさに刮目して之を待つべきのみ。

教育概見

杉山富樫

人間一生は維れ渺たる滄海の一粟たるに過ぎず、毫も誇揚するに足らざるに似たり。然りと雖も古來人間として擧動せる幾多の形迹を察するに實に輕視す可らざるものありて存す。看よ其高遠なるも

のは發してソクヲテスの智徳とあり、其幽邃なるものは釋迦牟尼の宗教とあり、其公正なるものはワシントンの仁愛とあり、其美妙なるものはシェーキスヒヤの傑作とありしにあらすや。現時の科學哲學は愈々進歩し益々發達して、其底止する所を知らざらんとす。夫れ然り吾人は人間一生を輕視し去り、滄海の一粟を以て之を目する能はず。

人間は一種の勢力を有す。此勢力にまて一たび伸張せんら、或は高く九天に沖し、或は遠く無限に奔せ、或は微かに極小に徹す。今日に至るまで傳へ來りたる歴史上の事實は、即ち吾人々類の有せる勢力の發揮せるものにて、將來に於ても日に月に顯著なるに至るべし。彼の詩歌と云ひ、哲學と云ひ、科學と云ひ、農工と云ひ、將た又戦争と云ひ、平和と云ふもの、皆是れ人間の勢力の結果に外ならじ。果して然らば吾人が文明の進歩と稱する所のものは、則ち此勢力の漸次伸張するによりて得る成績からすんばならず。是に於てう教育が人生及び社會に至大至重なる關係を有する當然あることを發見す。

教育とは人間の有せる勢力を適當に伸張せしむる方法を謂ふ。他言を以て之を云へば、教育は啓發を意味す。されば教育の目的は一種の自動機械を造るにあらすして、活潑なる真正の人間を養ふにあり。抑も勢力とは人間の内部に有する活動の性質の謂にして、教育あるものは之を自由な高尙に自然に公正に活動せしむる順序法則を與へ、且つ之に原動力を蓄積せしむるを任務とす。果して然らば教育は個人的發達を十分ならしめ、進んで更に総合的性質を有せしむるものにして、進歩開明の如きは此の教育を經たる者によりてのみ得らるべし。此故に教育を以て國家成立の基礎とす所以のもの、果して理の當に然るべきものと謂ふべし。

吾人々類が此世に生を享くる豈に偶然からんや。人生五十以て長しと云ふべからず、境遇各々異なる有りて命運の善惡差別あり、且つ天賦の厚薄之を如何とも爲す可らず。然りと雖も吾人は自暴自棄、以て人生を罵倒し、善運を軽じ、不運を恨み、醉生夢死禽獸と伍するを得ず、吾人の心意は之を爲すに忍びざるあり。吾人は人生の最大目的は斯の如く卑陋なるものにあらざるを信せずんばならず。夫れ然り、然るが故に吾人は合理的方法を考察し、之に依りて最も公正なる且つ最も効果ある事業に従ひ、其節操魂膽を鍛鍊し、國家の進歩隆盛を企圖するを要す。而して吾人の一舉一動皆を果斷的に義務的に公共的に發現するを要す。此の如きもの教育に依らずして將た何にか依らん。教育の價值眞に偉大なりと謂ふべし。

教育は人間生活の全体に相關し、其自然の傾向に隨て天性を完全ならしむるに至るを期す。吾人は教育の自然的傾向に隨はざる可らざることを云ふ、何と云へば故意に作爲して人間を一個の模型に嵌合せしむるは、即ち其自由を削り活動を奪ひて、器械的にして偽善的ある者を養成するの結果あればあり。而して又吾人は教育の天性を完全ならしむる媒介とある可きを云ふ、何と云へば人間の眞正の價值は皮相的ある智識に非ずして、人間の中心に存する徳性にあることを知ればあり。勿論智識は教育の重なる部分にして、之を例へば人間の装ふべき錦繡綺羅と稱すべく、之れをくんば人間に品位なく裝飾なきが如しと雖も、吾人は信ず、知識は毫も人間の價值を増益するものに非ず。唯だ智識の尊貴ある所以のものは、實に之を有する人物の徳器完全なるにあり。憐む可し、徳其器にあらずして區々たる知識を張大にし、以て自ら得たりと爲すもの、愚昧や。

吾人は知識を以て重大至要なる價值あるものあるを知る。彼の國家發達の要素も之を缺く可らず、社

會的生活の進歩も之によりて指導せられ、一個人の品性行爲も之によりて訓練せらるゝを以て之を見るも、人生一日も知識の進歩を要せざるはあきまを認むべし。知識は道理を明にし、進歩の方針を定め、實行の順序を教へ、又事業の効果を多からしめ、社會の發達を速かからしむ。個人及び社會が知識に負ふ所亦た宏博ありと云はざる可らず。此の如き事實あるを以て今日に至るまで教育あるものは、屢々誤解せられ又誤解せらるるまゝに實行せられたり。世間教育家を看よ、動もすれば即ち曰く、ペスタロツヂ、曰くフレーベル。而して彼等はペスタロツヂ、フレーベルの大着眼點ありし、人間開發の方案に至りては、毫も之を知得せざるものゝ如し。是に於てか學生たる者徒らに實利主義に傾き、唯だ教育によりて生活の方法を得んとするに汲々として、他を顧みざるが如き弊患を被れり。豈に國家百年の大計の爲め、慨歎せざるを得んや。昔時孔夫子の弟子子張俸祿を求むるを問ふ、孔夫子は之に答ふるに先づ天爵を修むべきとを以てせられたり。知るべし、知識も道德と相待つにあらざれば、毫も貴重すべきものにはらざるを。

我國の人民は最も敏活銳利ある人民あり、既往二千年の歴史は其進歩的傾向あるを表はさ、維新二十有余年の事實は十分に智能の競争者たるに足ることを示せり。或は東洋の英國と稱し、或は太平の佛國と唱ふ、蓋し虚偽をあらざるをあり。一日數百里を駛る汽車は既に全國に貫通せんとし、坐して千里を隔て對話し得る電信は四方到らざる處なく、人工を節約する機械は到る處に運轉せ、農工商の如きは頗に其面目を一新し、教育の制度亦た備はる。我國物質的文明の將來眞に多望ありと謂ふべし。然り而して今や識者は人倫の廢頹を浩歎し、道德の振起を以て最大急務とせせり。吾人は勿論或る極端ある觀察者の如く、我國は現に世道衰微の極に達し、到底救済す可らざるに達せりとは信せず。然り

と雖も世人の道德の必要を叫ぶ聲漸くに高きは、是れ決して安心すべき事實にあらざるとを認めずんばならず。教育家たるものは今日最も注意を要す。吾人を以て之を云へば、我國の將來は主とて我が教育家の手腕に委托せられたるものあり。教育家の任務實は重大ありと謂ふべき。

教育は即ち教授するところあり、然れども單に先達者が其知れる所を、後進者に知らしむるは、是れ教ゆるのみにして授くる所なきあり。授くる所とは智識の注入に非ずして道德の感化を謂ふ(但し是れ僅かに字義を以て差別するものにして確たる殊別あるにも非ず)。抑も動物を馴養するには之をして機械的に服従するに至らしむれば則ち足る、然れども教育家は學生を服従せしむるを目的と爲す可らず、唯だ内部の勢力の活動を助成するを要とするのみ。尙ほ之を換言すれば教を受くる者は教を授くる者に對するや、宛ら寒風に肌膚の緊縮するが如く、嬰兒に對えて怒情自ら消散するが如く、自然に風靡するに至らざれば、未だ以て教育の眞髓を得たるものにあらざるべし。

吾人は之を聞く、愛ゆる者愛を生じ、徳ある者徳を生むと。是れ即ち道德の勢力あるを云ふものにして、之を感化と稱す。避けんとして之を避くる能はず、之を拒まんとして却て之に服従するに至る、之を感化の顯著ある効果とす。教育者は右手に技術藝學の知識を有すると共に、他手に道德感化の勢力を有せざる可らざるが故に、其爲す所最も困難にして又最も成功少なきあり。教育の事業の至難あるは、即ち精神的に學生を教導することあるを以てあり。然りと雖も教育者が其成功を得るに及べば、以て社會を撼動するを得べく、以て社會の風潮を左右するを得べく、又以て國家富強の増進を成功するを得べし。豈に是れ千軍萬馬の間に起ちて、軍機を左右する豪傑英雄に優らざらんや。

我國は一時德育の上に於て紛亂を極め、滔々たる教育家は徒らよ智識注入的方案に依り、任務既に盡

きたりと爲し、吾人の高尚なる觀念より人性を圓滿完全ならしむることの必要あるを顧みず、此弊流れて放逸は陥り知識の重荷に困むに至れり。教育の勅語は即ち忝くも此處に 至尊の勸諭を煩せられしより下賜せられしものあり。吾人は大に感奮する所ありて、人間深奥の勢力を發揮し、人生純潔の性情を圓滿よし、以て 聖慮の万一に報ひ奉らざる可らず。而して彼の屢々新聞紙上に學校騒動の記載せらるゝものは何ぞや。吾人は教育の勢力の一日も早く鞏固あるに至らんことを希望して止まざるあり、何とすれば教育は國家成立の基礎にして、其鞏固あると否とは實に國家百年の大計に關すればあり。

吾人は教育は實に學校の教育のこを云ふものにはらざることを推論せざるを得ず、前きに教育は啓發を意味することを云へり、之にして大なる誤をからしめば、彼のフレイベルが人生は斷絶せざる教育ありと論せしもの眞に適切あるを認めずんばならず。教育は之を例へば人間榮養の作用の如きか、學校は之に缺く可らざる食物を供給する所あり、而して唯だ之のこにては十分からざるあり。即ち或は他の方法によりて滋養物を攝取し、之を適當なる手段によりて其體軀と全化せしむることを計る、是れ即ち皆を教育せらるものに爲さざる可らざる所、而して日夜之を勤めて始めて効果ある所。斯の如くして始めて知識十分に修得せられ、徳器完全に進歩せられ、人生の目的を成就するに一歩を進むるを得。ジャン、マリー、ギユウヤツ曰く、進化、是れ教育の目的とすべき極致あり。無限の進化は學校の卒業に終る可らずして、死床の上のままで繼續し、個人の墓中に終らずして、遺傳の法則により其苗裔まで繼續す。是れ即ち教育が單に個人の成業のみ目的とせずして、人類の進歩を目的とせざる可らざる所以ありと。教育の目的とする所亦た以て推知するを得べし。

吾人は教育者に非ざるも教育の本旨を研究するは甚だ必要あるを信ず。然り而して以上記する所の如きは、唯だ余の平素思考するもの一端にして、以て教育の本旨を知るに足るものとは信せず。且つや編輯の期日切迫せるに際し詳細余の意を盡す能はず。讀者其蕪雜あるを諒せば幸甚。

雜 錄

兩筑修學旅行日記

(承前)

教 授 益 間 益 三

○十日。晴。福岡に在り。午前八時。職員生徒一同。箱崎神社に詣る。社は應神天皇、神功皇后を合せ祀り。配するに武内宿禰を以てするもの。博多の東北半里に在り。博多を出て、路亂松鬱蒼の中に入る。千代松原と稱す。即ち昨至りし東公園是れあり。植うるに唯松を以てし。其幾万株あるを知る可からず。此れより北。海に沿ふて數里皆然りと云ふ。翠色白砂と相映え。頗る佳觀とす。松梢疎ある處に至りて。人家數十煙。博多灣に面するを。箱崎村とす。神社は路の右に在り。華表を來み。左右紋石を以て短垣を造れり。既に華表に入る。老松矗立。森々穆々。人をして肅然敬を起さしむ。數十歩にして。閤門あり。小早川隆景の築きて以て獻せし者あり。中央の額に。敵國降伏の四字を書す。延喜の宸筆と係ると云ふ。過きて而して正殿の前に至る。其構造。雄傑廣敞にして。大に古色あり。皆整列。頓首肅拜す。嗚呼。神后の征韓。獨り我が武威を海外に輝かせし而已ならず。三韓の我に属せしより。船腹を乾かさずして。我に朝貢し。其間に於て。文學技藝。前後彼れより我に輸入し。以て我國開化の一大段落を成すに至れり。文學に志す者の。當に記憶すべきもの。賀來教授。神官に就きて。社内の藏物を觀る。